

# あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.240 2022.6.15

## 夏の森を舞う 宝石たち



もくじ	博物館TOPICS ◇ 夏の森を舞う宝石たち	2
	博物館TOPICS ◇ 親子で楽しむ！夏休み3講座について	2
	休館通信 ◇ 燻蒸ってなに？	3
	誌上博物館 ◇ 国宝旧開智学校校舎を支える隠れた柱	4
	博物館のノートから ◇ 武家の稲荷信仰	6
	資料紹介 ◇ 農村の生活を支えた龍水社の時計	7
	ガイドコーナー ◇ はんでんぼく	8

掲載されている各種事業は、新型コロナウイルスの感染状況などによって急遽中止となる場合がございます。開催の可否などについては、各館にお問い合わせください。

## 夏の森を舞う宝石たち

6月は梅雨で野外観察に出かけるのが億劫になりがちな季節ですが、この時期から見られるようになる美しいチョウたちがいます。ゼフィルス、あるいはミドリシジミと呼ばれるシジミチョウの仲間です。日本には25種生息していて、普段身の回りで目にするシジミチョウ（ヤマトシジミなど）に比べると一回り大きく、半数の種のおスは緑色に輝く翅はねを持っています。その美しさと、中には珍しい種もいることから、昆虫好きの間では人気のあるチョウたちです。

しかし、博物館で働いていると「こんな綺麗なチョウチョなのに知らなかった」という声をしばしば耳にします。それもそのはず、ゼフィルスの多くは森や林の樹上の環境を好むチョウのため、その存在を知っていないと中々目にすることはありません。「ゼフィルス」という名はあまり分類の研究が進んでない時代に、樹上性のシジミ

チョウをまとめて分類した際に付けられた名で、ギリシャ神話の西風の神に由来します。

オスは林の縁などに縄張りを持っていて、葉の上でメスを待ちます。しかし、たいていやってくるのは他のオスや別種のチョウで、その場合は勢いよく飛び出し追いかおうとします。時にはお互い追いかおうと、まんじともえ 卍巴に緑の光が舞う姿が見られることもあります。

松本市内でも森や林周辺で観察でき、博物館のあるアルプス公園周辺では19種の記録があります。その姿かたちだけでなく、出現する時期や活動する時間は種によってさまざま、観察のしがいがあるチョウです。

(山と自然博物館 学芸員/内川潤季)



シヨウザンミドリシジミの標本(実寸大)。ゼフィルスの中では比較的よく見られる種

松本市四賀化石館 Tel.0263-64-3900

## 親子で楽しむ！夏休み3講座について

### 夏休み3講座とは

夏休み3講座は、四賀化石館で毎年開催している親子で楽しめる講座です。本物の化石に触れたり、ジオラマを作ったりしながら、化石の魅力や太古の世界のロマンを感じていただけるほか、夏休みの自由研究のテーマ探しにも役立つと思います。申込みは、3講座とも7月6日(水)午前9時から電話にて開始します。詳細は、当館ホームページをご覧ください。

それでは、3種類の講座を順番に紹介します。

### 1 古生物の部屋づくり

日 時：7月24日(日)

午前10時～11時30分

午後1時30分～3時

対 象：5才以上(小学生以下は保護者同伴)

会 場：四賀化石館2階学習室

定 員：各回20名(定員になり次第終了)

受講料：1名500円(観覧料込み)

講 師：まつした さゆり(イラストレーター)

レプリカのアンモナイトと三葉虫に色をぬり、石や砂、木を使って、古生物が住む部屋を作りま

す。講座の終わりには、皆さんの作品を並べ、品評会と撮影会を行います。講師は松本市在住のイラストレーター兼絵本作家の方が務め、プロの本格的な色ぬりの技術も学べます。みんなでオリジナルの古生物の世界を作り上げてみませんか。



### 2 微化石モンスターを探せ!

日 時：7月31日(日)

午前10時～11時30分

午後1時30分～3時

対 象：5才以上(小学生以下は保護者同伴)

会 場：四賀化石館2階学習室

定 員：各回20名(定員になり次第終了)

受講料：1名500円(観覧料込み)



講師：小池 伯一（当館研究専門員）

ルーペを使って、300 万年前の砂の中から小さな化石を探し出します。中には数ミリ程度の化石も入っています。サイズは小さいですが、太古の趣を感じられる貴重な化石を採集することができ、お土産にお持ち帰りいただけます。また、本格的な化石の勉強もすることができます。化石採集をしながら、楽しく化石の学習をしてみませんか。



### 3 化石クリーニング体験

日時：8月7日（日）

午前 10 時～ 11 時 30 分

午後 1 時 30 分～ 3 時

対象：小学 3 年生以上（小学生は保護者同伴）

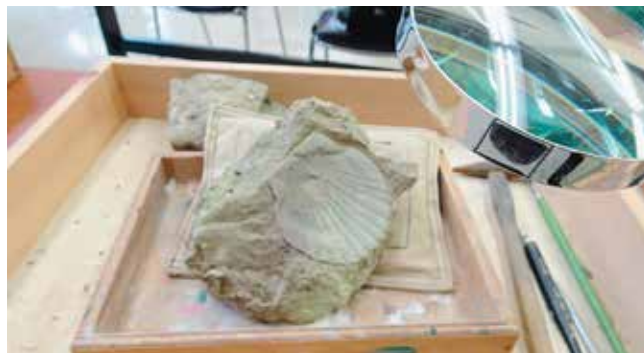
会場：四賀化石館 2 階学習室

定員：各回 20 名（定員になり次第終了）

受講料：1 名 500 円（観覧料込み）

講師：吉澤 五美（当館研究専門員）

タガネとハンマーを使って石の中に隠れている化石を少しずつ掘り出します。ホタテやカキなど、お馴染みの化石が見つかるかもしれません。何が出るかは発掘してからの楽しみ！手の平大の大物を発掘するお客様もいます。本格的な工具を使って化石を発掘し、化石の奥深さに触れてみませんか。



（四賀化石館 学芸員 / 藤原裕希）

## 休館通信 ～新博物館への道～

vol.7

### 燻蒸ってなに？

長い年月を経てもろく弱くなっている資料を保管するなかで、学芸員の頭を悩ませるのが「虫」と「カビ」です。

資料を食べたり汚したりしてしまう虫のことを「文化財害虫」と呼びます。おなじみのゴキブリも、さまざまな素材を食べってしまう文化財害虫です。

カビも博物館資料の大敵です。カビが生えることで資料が崩れたり、汚れて文字が読めなくなったりしてしまいます。

このような資料の天敵である虫・カビを退治する方法の一つが「燻蒸」です。密閉した専用テントの中に資料を入れ、ガスでいぶすことで虫・カビを一網打尽にします。

せっかく新しくきれいな博物館に引っ越しても、中で虫やカビが増えてしまっは台無しですので、新博物館の収蔵庫に運び込む資料はすべて燻蒸します。

今回は、虫や虫の卵に効く「ヴァイケーン」と、カビにも効く「エキヒューム S」という二つの薬剤を使用する予定です。どちらも、虫・カビはもちろんのこと、人にも有害なガスですので、専門の業者によって慎重に作業が行われます。

1 回の燻蒸につき、ヴァイケーンでは約 24 時間、エキヒューム S では約 36 時間という長い時間がかかります。今回は、これを何度も繰り返しながら大量の資料を燻蒸していきます。

資料を末永く保管するため、そしてその保管環境を守っていくためには欠かせない、とても大切な作業ですので、学芸員も気合を入れて頑張っています！

（松本市立博物館 学芸員 / 武井成実）



昔の燻蒸の様子

## 国宝旧開智学校校舎を支える隠れた柱

令和3年(2021)6月から耐震対策工事を実施している旧開智学校校舎ですが、現在は解体工事と2階床の水平構面の補強が一段落し、壁内部の耐震補強が進んでいます。



旧開智学校校舎 現在の内部の様子

耐震工事による休館中の旧開智学校では、工事の様子が発信や普段は見るできない部分の記録・調査研究に取り組んでいます。解体工事の様子については、松本市公式YouTubeチャンネル内にて紹介していますのでそちらもぜひご覧ください。

また、信州大学の梅干野研究室と松田研究室に調査に入らせていただいております。専門家による壁内部の柱や仕様の確認作業も行われています。解体によって普段は漆喰壁や床に覆われた部分が露出しており、これまで移築復元工事の際の報告書などでしか確認できなかったことがいろいろと分かってきています。今回の誌上博物館では、耐震対策工事によって明らかになった壁内部の柱の特徴について紹介します。

### お寺から転用された柱

旧開智学校校舎に周辺の寺院などからの転用材が用いられていることは有名です。学制発布後、廃仏毀釈により廃寺となった多くの寺院が学校へと転用されており、松本を中心とした筑摩県も、廃寺となった寺堂を学校に転用することを奨励しています。当時、小学校の運営や校舎建設にかかる費用は、地域の人々が負担することが原則でしたので、費用捻出のため使われていないお寺の建物を利用することは理にかなったことでした。(ほかにも、お寺の仏具類も売り払って学校経費に充てることが奨励されています)

開智学校も、廃寺となっていた松本藩主戸田家の菩提寺全久院の建物を校舎に転用して開校して

います。現在、国宝に指定されている擬洋風校舎を建てる際は、全久院校舎の解体材や周辺の廃寺の材を転用して工事が進められました。全国で西洋化が求められた文明開化の時代、江戸時代以来の大工たちは必要な技術や材料が不足する中、伝統技術や現実的に転用しやすい寺院の材を取り入れて洋風の校舎を手がけてきました。そのため、旧開智学校のように洋風と和風、時に寺院のような雰囲気も感じられる不思議な校舎が各地に誕生することになりました。廃仏毀釈とそれに続く寺院の学校利用は、擬洋風校舎誕生を語るうえで欠かせることができないトピックです。

### 新築仕様帳にみえる転用材

こうしたほかの建物からの転用材は、資料でも確認ができます。

旧開智学校校舎には、校舎の設計施工を手がけた大工棟梁・立石清重が、工事が始まる直前に作成したとみられる仕様帳(「開智学校新築仕様帳」として国宝附指定を受けている資料です)が残っています。校舎を建てるにあたり、木材や金物、ペンキなどの材料・人足がどれくらい必要かを書き上げた仕様帳です。この中の柱に関する記述をみていくと、「松 四間 六寸五歩角」や「松 二間 五寸角」など7種類の柱が計上されています。この内、「松 四間 六寸五歩角」の柱34本と「松 一丈 五寸角」の柱185本が「古木ニテアリ」と朱書きされています。これが、寺院など周辺の建物からの転用材と考えられます。この「古木」は至る所で使われており、土台や梁といった箇所と比べると柱の「古木」の割合は少ないですが、解体によって露わになった貫穴の開いた柱から当時の擬洋風校舎の事情を感じることができます。

こうした擬洋風校舎の価値の一端を示す転用材の多くは、壁の内部や床下などに使われており普段は目視することができません。校舎中央回り階段に用いられた丸柱が唯一目視できるものでしたが、壁や床の解体によりほとんどの転用材を目視できるようになっています。



「開智学校新築仕様帳」(明治8年) 右下に「古木ニテアリ」と朱書きされている



## 壁内部の柱の種類



手前の穴が開いたものが転用材とみられる柱

梅干野研究室の調査によって、壁内部の柱は大きく4種類に類別できることがわかってきました。一つ目は、明治8年(1875)から始まった新築工事の際に周辺の建物から転用された古材です。旧開智学校校舎の建物に関係ない貫穴が開いた柱などがこれに当たり、多くは江戸時代以来の柱で、旧開智学校校舎で最も古い木材となります。二つ目は、新築工事の際に製材された柱です。新築工事の際は「波多官林」(現松本市波田地区)から伐採したものを中心に多くの新材が使われました。貫穴などの痕跡がなく、なおかつ新築工事の際の番付が墨書きされた柱がこれに当たります。三つ目は、新築から昭和38年(1963)の解体移築までの間に修理などで入れ替わった柱です。明治29年の水害時に現校舎の北東部が大きく損傷しており、その際の修理で入れ替わった柱などがこれに当たります。(ほかにも、昭和3年に校舎が大きく改変されており、この時も柱に手が加わった可能性があります。いずれも今回の調査ではいつ入れ替えられたかの特定は難しいと思われま



移築復原工事の際の焼き印

最後の四つ目は、移築復原工事の際に入れ替えられた柱です。柱に「昭和三十八年度修補」と焼き印が押されているものがこれにあたります。

移築復原工事の際の報告書には、移築にあたって入れ替えた材とそのまま再用した材の数量や、場所ごとの転用材の痕跡についての記述があるものの、どの材が転用材でどの材が新しい材なのかといった詳細までは言及されていません。今回の調査において、一部の解体しない壁の部分を除き、転用材を含む各柱の時期の把握が可能になり、校舎の価値理解が一層進むことが期待されます。

## 明らかになってきた柱の特徴

梅干野研究室の調査の中で分かった壁内部の柱の特徴についていくつか紹介します。旧開智学校

校舎の中で最も古い柱となる転用材ですが、明治の新築時に製材された柱と比べるととても丁寧な仕上げが施されているようです。角が取れた柱や、表面がキレイに仕上げられた柱は、壁の内部に埋めてしまうにはもったいないと感じるほどです。中には色が塗られているものもあり、見られることを意識して仕上げた柱が転用されたことにより壁に埋もれてしまったと推測できます。



手前の縦の柱には色が塗られている

一方、新築時の新材は手斧仕上げでデコボコした感じが残るなど、壁に隠れて見えなくなることを想定していたかのような仕上げです。これまでは貫穴があるかどうかを転用材の主な判断基準として考えていましたが、こうした仕上げの仕方にも、転用材と新材の違いが表れていることが分かってきました。今後も調査を進めていけば、また面白いことが明らかになるのではないかと期待がふくらみます。

今回は、耐震対策工事に伴う校舎内部の解体により明らかになってきたことについて紹介しました。ここまで大規模な解体工事は、半世紀以上前の移築復原工事以来のことです。今後も、この機会にさまざまな記録化・調査を行っていきたいと考えています。その成果は工事見学会やホームページなどで発信していきますので、ぜひチェックしてみてください。

(国宝旧開智学校校舎 学芸員/遠藤正教)

## 国宝旧開智学校校舎耐震対策工事

令和3年6月～令和6年秋頃竣工予定(工事中は休館)  
隣接する長野県宝松本市旧司祭館にて、校舎や工事に関する紹介展示を実施中。旧開智学校校舎のショップも運営中です。詳しくは旧開智学校校舎のホームページをご覧ください。耐震対策工事の紹介動画も公開中!

## 武家の稲荷信仰

「伊勢屋、稲荷に犬の糞」。江戸にたくさんあったものを並べた成句です。伏見稲荷大社のホームページによれば、稲荷神社は全国に約3万社あるそうで、伏見稲荷大社はその総本宮です。稲荷神社は松本にも多くみられます。「稲荷」と書くくらいですから、本来は稲作の豊穰をもたらす神様だったと考えられます。その農業神が武家地にも数多くみられるのはなぜでしょうか。

稲荷神社の主祭神は宇迦之御魂神<sup>うかのみたまのかみ</sup>です。「宇迦」は穀物のことなので、この神様は穀霊ということになります。お稲荷さんの社殿には、ほかの多くの神社の獅子・狛犬がいる場所に、白い狐が鎮座しています。お稲荷さんに従う神様で、眷属といえます。伏見は土人形発祥の地といわれますが、社殿背後の稲荷山の粘土で眷属の狐を作って焼き、参拝者に下げ渡したのが始まりという説もあります。お宮から下げ渡されたもので、これが「ミヤゲ」の語源だという説もあります。参拝者は、穀霊の宿った素焼きの狐像を持ち帰り、砕いて田んぼに撒き、豊作を願ったそうです。

伏見稲荷大社は、ご利益に「商売繁昌・五穀豊穰」を掲げています。貨幣を媒介としてモノが取引されるようになると、モノを供給する商人にまで信仰が広まり、商売繁盛がご利益に加わったものと思われまます。それでは、そのお稲荷さんが、なぜ松本では武家に信仰されるようになったのでしょうか。

そのヒントは神社の神額にあります。伏見稲荷大社の楼門の神額には「伏見稲荷大社」とだけ記されていますが、松本のお稲荷さんの神額には神社名の前に恭しく「正一位」の文字が記されています。「正一位」は律令制の最上位の階級です。位階といい、律令官僚は少初位下から正一位まで30の階級があり、位階に沿った職に就くことになっていました。この位階を神様に当てたのが神階です。これは平安時代になってから始まったようです。それまで位階の外にいた天皇と神様に上下関係を作ったのです。

では、正一位をいただいた神様はお稲荷さんだけなのでしょうか。そんなことはありません。古代の最後の正史とされる『日本三代実録』の記録(887年)までに、大己貴神(大国主命)をはじめ13柱の神様が正一位に叙されています。そして、

この13柱には宇迦之御魂神は入っていません。伏見稲荷大社のホームページには「天長4年(827)に淳和天皇より『従五位下』を授かってからだんだん上進し、天慶5年(942)に『正一位』になりました。」とあります。ではなぜ、そんな後発のお稲荷さんが堂々と「正一位」と掲げているのでしょうか。



百瀬家の夜光稲荷

京都の秀吉ゆかりの出世稲荷神社をはじめとして、「出世稲荷」という神社名が全国に散見します。天長4年の従五位下に叙された記事が『日本後紀』逸文に見え、その後、嘉祥3年(850)に従四位上(『日本文徳天皇実録』)、天安元年(852)に正四位下(同前)、貞観16年(874)に従三位(『日本三代実録』)と、お稲荷さんはとんとん拍子に神階を進めていきます。このスピード出世が「出世稲荷」の神社名につながり、そのご利益にあやかり「正一位」を掲げているのでしょう。

松本の三の丸にも美術稲荷をはじめ、個人で祭っているお稲荷さんが複数あります。なかでも、板橋家が祭っていた夜光稲荷の御利益は群を抜いています。板橋兵左衛門正吉は、慶長19年(1614)に80石で戸田家に召し抱えられ、15年後の寛永6年(1629)には1000石取りの年寄役に出世しています。この出世に関しては、「戸田康長が大坂の陣の天王寺の夜の戦いで敵と組み合っ溝におちてしまい、板橋兵左衛門が救出に向かったところ、突然、空中に火の玉が現れ康長を照らし出し、無事助けることができた」という話が伝わっています。板橋家ではこの火の玉をお稲荷さんのご利益として「夜光稲荷」として祭ったそうです。

この夜光稲荷は、板橋家が松本を離れるときに託され、現在は西堀の百瀬家がお祭りしています。また、和泉町の萬年屋のお稲荷さんも夜光稲荷だと伝承されています。松本藩の武士たちが、靈験あらたかな夜光稲荷の分霊を勧請した名残ではないでしょうか。

(松本市立博物館 館長/木下守)



美術稲荷の神額



# 農村の生活を支えた龍水社の時計

## 1 端正な佇まいの宮形掛時計

今回紹介するのは、新しく時計博物館に加わった時計で、古時計ファンの間でもあまり知られていない、知る人ぞ知る「龍水社」ブランドの掛時計です。高さ75cm×幅32cm×厚15cmの14日巻宮形掛時計で、昭和30年（1955）ごろの製作と思われます。まず目を引くのは、アールデコの意匠がさりげなく取り入れられた、端正な佇まい。振り子を覆うガラス面は直線的な特徴に加え、円弧や連続的な波模様といった幾何学模様がモチーフで、文字盤の数字や長針、短針など細部まで実にエレガントなデザインといえます。また、見えない背板も、しっかりとした部材が使用され、木工部分の歪みは全くありません。クオリティの高さに驚かされます。



龍水社掛時計

## 2 龍水社の歴史 ～東洋のスイスをめざして～

ここで「龍水社」の歴史を紐解いてみましょう。

『龍水社七十年史』には、明治20年代から大正、昭和にかけての半世紀、長野県の農村は、「明日の米に泣き、子供を売って農村は飢えを凌いだ」<sup>※1</sup>時代だったと書かれています。耕地面積が乏しく、土地の生産性に限界のある日本の農家は、副業的収入を求めない限り農家の生活は困窮します。そこで戦後、農家が現金収入を得るため農村工業が推奨されました。それはいわば国策で故・賀川豊彦氏<sup>※2</sup>が、日本人の手先の器用さに着目し、農村に時計工業、精密工業を普及させ、日本を「東洋のスイス」にしようと思立ったことに始まります。

その計画の中で「農村時計技術講習所」が埼玉県に設立されました。そこで2年間の修業を終えた修了者による時計工場が、昭和23年（1948）長野県に設立されました。1つは、長野市篠ノ井の「千曲川農業時計製作所」、もう1つが、上伊那の「龍水社」です。龍水社の工場は養蚕倉庫、蚕室を改造したものでした。地元有力メーカーの諏訪精工舎の元技術者も指導にあたり昭和30年に、龍水社の掛け時計は通産大臣賞を受賞しています。

龍水社時計工場の昭和35年の実績は、掛時計39,500台、目覚時計11,500台、計5万台余を生産し、総売上は7,627万円にも及んでいます。<sup>※3</sup>

## 3 戦後の農村工業の一断面

日本の産業が最も輝いていたのは昭和30年～40年にかけての高度成長期です。技術革新が激しく、それに伴い経営の見直しや、組織の変更が盛んに行われました。龍水社は吸収合併により、経営をリズム時計工業(株)に譲渡し、13年間経営した時計事業に終止符を打っています。リズム時計工業(株)の箕輪工場は「竜水工場」の名称を残し、木枠時計、美術時計の生産を続けました。その後、シチズン時計の傘下に吸収されましたが、竜水工場の稼働は、中国時計産業の台頭が高まる平成12年（2000）ごろまで続けられました。



リズム時計工業(株)龍水工場昭和48年ごろ(写真提供 野澤浩正氏)

## 4 おわりに

今回紹介した時計は、龍水社の技術者であり創業者の一人であった方が、大切に保管されていたものです。

龍水社の時計は、農業振興の中で「農村で暮らす人々の生活を豊かにしたい」という切なる思いから生まれています。長野県の産業史の中で、長く記憶に留めておきたい時計といえます。

(松本市立博物館 学芸員/大島浩)

※1・3参考資料:『龍水社七十年史』発行:龍水社七十年史刊行委員会(昭和59年)

※2 賀川豊彦(明治21年(1888)～昭和35年(1960))  
大正・昭和期のキリスト教社会運動家、社会改善家。戦前の日本労働運動、農民運動、生活協同組合運動において、重要な役割を担う。

みゅーじあむショップ通信

はかり資料館 オリジナルトートバッグ・エコバッグ

はかり資料館ではオリジナルデザインのトートバッグ・エコバッグを販売しています。  
エコバッグはポリエステル製で「はかり」の図柄、トートバッグはコットン製で「はかり」と「なまこ壁」の図柄があります。

中町の散策の折には、はかり資料館入口のミュージアムショップに、お立ち寄りください。  
(はかり資料館 学芸員 / 遠山順子)



展示スケジュール

詳細はホームページへ! <https://www.matsu-haku.com/> まる博 検索

館名称	7月	8月	9月
松本市はかり資料館	■松本の七夕 7/2(土)~8/14(日)		
旧制高等学校記念館		■今昔青春群像2 7/16(土)~9/19(月・祝)	
窪田空穂記念館	■星に願いを 7/2(土)~8/14(日)		
重要文化財馬場家住宅	■七夕人形が揺れる縁側 7/2(土)~8/14(日)		
松本市時計博物館		■開館20周年記念展「時の記憶」 7/30(土)~9/11(日)	
県宝旧山辺学校校舎		■夏休みの自由研究にどうですか「昔の道具調べ」 7/23(土)~8/31(日)	

※料金は通常観覧料 ※月曜休館(休日の場合は翌平日)

旧山辺学校校舎から

☎0263-32-7602

市民学芸員による戦争紙芝居上演

日時 8月6日(土)  
①午前10時20分~10時50分  
②午後12時30分~1時

会場 旧山辺学校校舎内

料金 通常観覧料(大人200円、中学生以下無料)



戦争紙芝居の様子

山辺の里の道祖神・文化財めぐり

日時 10月1日(土)午前8時30分~午後3時  
会場 松本市教育文化センター南側入口付近  
(松本市里山辺2930-1)

料金 500円(資料代・拝観料)

定員 バス利用者20名(要予約・先着順)

対象 どなたでも

講師 出井東亜雄氏/山辺歴史研究会顧問

持ち物 昼食・水筒・筆記用具・カメラなど

申込み 9月17日(土)午前9時から電話で旧山辺学校校舎へ



道祖神めぐりの様子

窪田空穂記念館から

☎0263-48-3440

将棋教室

窪田空穂生家を会場に将棋教室を開きます。

日時 7月23日(土)  
①午前の部(入門コース)午前10時~正午  
②午後の部(実力養成コース)午後1時~3時30分

会場 窪田空穂生家(窪田空穂記念館向かい側)

参加料 無料

定員 各約20名(要予約・先着順)

対象 小・中・高校生

講師 石川陽生七段他

申込み 7月22日(金)までに電話で窪田空穂記念館へ

山と自然博物館から

☎0263-38-0012

国蝶オオムラサキを見よう!

公園内を歩きながらオオムラサキなどのチョウを観察します。

日程 7月2日(土)午前9時~11時

会場 アルプス公園内(集合:森の入口広場)

参加料 無料

定員 15名

対象 小学生以上の子どもとその保護者・大人一般

持ち物 野外を歩きやすい服装、帽子、水分補給用の飲み物、筆記用具など

講師 保科守宏氏、土田秀実氏/松本むしの会幹事

申込み 6月7日(火)午前9時から電話で山と自然博物館へ

あとがき

建設中の新博物館は、足場が取り払われ、外壁や吹き抜きのエントランスのガラス面を見ることができるようになりました。建物は7月中旬に完成する予定です。新博物館の完成を待ちながら、日々の業務に励んでいきたいと思っています。

(松本市立博物館 原澤知也)

あなたと博物館 No.240

発行年月日/令和4年6月15日

編集・発行/松本市立博物館

〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133

URL: <https://www.matsu-haku.com/>

e-mail: [mcmuse@city.matsumoto.lg.jp](mailto:mcmuse@city.matsumoto.lg.jp)



印刷 川越印刷株式会社